

2008年度外国人留学生入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文利用	実技試験作品利用
日本画	与えられたモチーフに対する発想力と表現(構成、描写、色彩感覚)を求めた。	実技試験の制作意図と本学志望理由の小論文を参考に面接を行い日本語の理解力を判断した。	○	○
油画	手鏡を持つ座像というモチーフだが、椅子に腰掛けている姿、鏡を持つ手、鏡と向き合うまなざし、肌色の表現等、人物画の魅力とともに良く鍛えられた技術を持っているか、構築する力を持っているかを判断したい。 またこのポーズの主題となりえる鏡と向かい合う頭部の表現が、空間的にどうとらえたかを見たい。色彩的にはモノトーンに使いモチーフとなったが、そのなかで質感や光のひよ間、モノクロームの階調のとらえ方等、絵画的な興味を導き出す力があるかも見たい。	制作意欲があり、表現することに真摯に向き合っているか。留学することの必然性があり、なおかつ本学の油画専攻を選んだ理由が明確かどうか。日本語によるコミュニケーション能力などを総合的に見て採点している。	○	○
彫刻	対象観察より描写力と画面構成能力を計る。またそれらのなかで、立体感覚や空間認識ができ、個性的な表現感覚を持っているか。さらに学部一般入学試験入学者との実技能力に差異があるか、また本学科カリキュラムへの対応能力などを審査する。	本学への進学意図や具体的な志望領域及び将来への展望などを明瞭に述べられるかなどを審査。	○	○
工芸	基礎的描写力はまず身につけておいてほしい。描写することは自分の目から頭脳を通し、手を使っての行為。その人のエネルギーや喜びが伝わってくる作品を期待したい。構図・立体認識・物質間・配色などを総合的に判断する。	なぜ本学の工芸学科を選び、何を学びたいのか、将来の展望など、熱意があり説得力のある答えがほしい。実技試験を介し、感想を話してもらうことで、本人の制作姿勢を再確認したい。面接全般を通して、学業を達成するために必要な日本語能力があるのかも含め判断する。	○	○
グラフィックデザイン	出題のねらいは、デザイナーとしてビジュアルコミュニケーションの効果を造りだすのに必要な想像力を求めている。 鉛筆デッサンでは、創作の原点ともなる観察力、そこから生まれる発見やひらめきなどを描く描写力を、色彩構成では造形化する発想力と構成力を問う。	・日本語日常会話が行えるか。 ・専門分野の用語が理解できるか。 ・入学志望理由が明確であるか。 ・授業への取り組みの意欲があるか。	○	○
プロダクトデザイン	モチーフ(懐中電灯)に自由にデザインしたハンドルを加え、鉛筆デッサンする課題を出題した。出題のねらいは、モチーフの形や構造を正確に描けるか、色や質感が表現できるか、独創的で理にかなったデザインができるか、その表現力があるかを見ることである。それらの完成度が採点のポイントになった。	面接では、しっかりと自分の考えを伝えられるか、学習目標は明確かが採点のポイントになっている。	○	—
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と色彩表現力を問うことをねらいとして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、独創的且つ調和的な構成がていねいにてできているかどうかを採点のポイントとした。	ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力を有しているかどうかを伺うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを伺うことをねらいとして面接試験を実施。また、共通教育の小論文は日本語の記述力を見るために参考にした。	○	—
環境デザイン	・環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的デッサン力があるか。 ・形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。	本学科の授業を理解できるだけの日本語能力があるか。日本で、また本学科で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。デッサン以外のデザイン力をポートフォリオによって評価。	—	—
情報芸術コース	イメージ(写真)を読み取り、言語(言葉)と結びつけて、どのように独創的な表現が結ばれるか。イメージや言語の意味を取るためには、それまでの経験が育ててきた想像力が必要であるが、それを他者に伝えるためには、互いに理解できる視覚的な言語へ置き換えた表現が必要とされる。作者の想像した世界や、情景や物語が媒体にどのように提示されたかを問う。	・留学生として学ぼうとしている内容 ・本学科を選択した理由 ・一般常識 ・実技の応用力	○	○
情報デザインコース	【出題のねらい】日々の暮らしの中にある多様で豊かな魅力をどのように感じとり、どのくらい気がついているのだろうか？これはデザインを学ぶものとして、それらを敏感に気づき表現可能なほど観察しているかを問うものである。豊かな現実につきづ力がデザイナーには必要であるからだ。 【採点ポイント】第三者である採点者に、表現を通じて「暮らしの中の魅力」が伝わってくるか、そして共感できるかどうかを採点の基準とした。そして魅力をどのくらい発見しているか、時間内に完成しているかということも加点の対象とした。	・留学生として学ぼうとしている内容は何か？ ・本学科を選択した理由は何か？ ・一般常識を持っているか？ ・実技の応用力はあるか？ ・コミュニケーション能力はあるか？	○	○
芸術	・言語運用力＝日本語の理解、表現力が十分か ・読解力＝課題を性格に読み取れているか ・思考力＝問題をどれだけ深く考察できているか ・独創性＝独自の発想や感性にすぐれているか ・理解力＝確実な事実認識ができているか	・志望理由 ・芸術に対する考え方 ・芸術学科の特色を理解しているか ・学業への熱意 ・日本語能力	—	—

全学科共通小論文

美術大学には入ろうというのであるから、美術、はだれにでも意味があるだろう。環境、もまた、世界のどこにすんでいても、意識の対象にはかならずはいっている。したがって、文字を読めなければ話にならないが、環境のなかの美術、は理解できよう。もちろん環境、美術、どちらの語もそこに含まれる意味によって個性はであるが、ここでは、「のなかの」をどうとらえるかで書かれる文章の傾向に差がでるだろう。いま当大学を受験する、その人物に個性が日本語になってあらわれることを期待する。